

高豊中学校のESD活動

＜活動の概要＞

・本校は、ESDを地域の自然や人に目を向け、将来よりよく地域社会に関わる力を育んでいくための学習活動と捉え、ESDの実践を通して地域の人や自然と積極的に関わり、そのよさや課題に気づき、自ら働きかけていく力を育成することを目標としている。具体的には環境学習、地域の産業の学習を柱に、①優れた自然の保全に関わる活動、②生命や自然の尊重と地域文化の継承に関わる学習、③地域の主産業である農業に関わる学習を行った。

・活動の実際

① 優れた自然の保全に関わる活動「海岸クリーン活動」 (全校生徒・地域・PTA)

本校の校区は、本州でも有数の規模を誇る自然砂浜海岸である「表浜」に面している。表浜には多くの海浜植物や砂浜特有の昆虫が生育し、アカウミガメが産卵のために上陸する。サーファーや釣り人にも愛される浜である。本校では、生徒会役員の呼びかけをきっかけに、この表浜のクリーン活動を1985年から続けてきている。

本年度の海岸クリーン活動は、11月5日に実施された。天候に恵まれ、保護者や地域の方も多く参加してくださった。多くのごみのうち、自然環境では分解されず、いろいろな問題を起すポリ袋やプラスチックごみ、表浜海岸に生息する昆虫が匂いに誘われて入り込み、出られなくなる空き缶、年々増えている流木を拾うことを意識してクリーン活動を行った。

当日は、表浜海岸で釣りやサーフィンを楽しんでいた人たちにもクリーン活動に取り組んでいる姿をアピールすることができた。



② 生命や自然の尊重と地域文化の継承に関わる学習

「ササユリボランティア」(全校生徒・地域団体)

表浜の背後の海食崖の上には、昔、多くのササユリが自生する里山があった。しかし、里山に人の手が入らなくなると、ササユリも減少してしまった。そのわずかに残ったササユリを地域の住民が見つけ、「笹百合保存会」を立ち上げ、環境を改善して保全に取り組んでいる。本校の生徒は、地域の方と協働して校区の自然を守ろうとする活動に、2005年から関わっている。毎年1年生が、「笹百合保存会」の方々と種つけや球根植えなどの作業を継続して行っている。これらの活動は自分の校区のすばらしさを感じ、生徒たちの郷土を愛する心の育成にも役立っている。

③ 地域の主産業である農業に関わる学習「農業体験学習」(1年生)

豊橋市の南部は、県内有数の農業地帯である。農家の子もいるが、生徒の多くは新興住宅地に住んでいる。身近に畑は広がっているが、農業にふれることは少ない。

本年度は11月7日に、1年生が校区内の農家19件にご協力をいただき、キャベツやトマトの収穫、大葉の仕分けからビニルハウスの清掃・

草取りまで農業に関する仕事を体験することができた。地域の人と交流し、郷土を知るよい学習の機会となった。

